

平成29年度
優秀賞

JX喜入石油基地株式会社

会社概要

JX喜入石油基地株式会社は、昭和44年9月に操業を開始し、敷地面積192万平方メートル、原油タンク57基を擁し、日本国内の石油消費量の約2週間分に相当する735万キロリットルの原油貯油能力を有する世界最大規模の原油中継備蓄基地を運営している。JXTGグループにおける原油の「中継」「備蓄」「ブレンド」といった3つの機能を担い、24時間体制(概ね12時間2交代、約228名が従事)で休むことなく稼働している。

削減実績

二酸化炭素排出量削減率4.5%達成(平成25年度比)

※電力排出係数の変動の影響を考慮し、電力排出係数を基準年度(平成25年度)に固定して実績排出量を算定し、計画期間(平成26年度～平成28年度)の平均排出量を評価した。

実施した対策

現場の声を反映する改善活動の実施

現場自律型の改善活動であるSEA推進活動[Safety(安全第一), Efficiency Economic & Environment(業務効率・節約・環境保全), Activation(活発な活動)]は、1年を通じて取り組んでいる。毎年3月には、各グループの取組で得られた効果を発表する「成果報告会」を開催し、活動の更なる活性化を図っている。SEA推進活動には、ベテラン社員や若手社員を問わず、現場から挙げられる“改善の種”を収穫するための「改善カード」も導入し、小さなアイデアも大切にすることを心がけている。平成28年度に提案された改善カードは41件であり、日々提案されるアイデアを基に「安全・環境保全・省エネ・効率化」に繋がる改善活動に取り組んでいる。

照明・空調の更新

航路標識灯は全て高効率照明へ更新済みであり、棧橋設備の大電力高圧水銀灯及び構内水銀灯も、順次、同様に更新するよう取り組んでいる。また、事務所では、照明設備を節電効果の高い蛍光灯(Hf)へ順次更新するとともに、空調機も省エネタイプ(部屋別個別運転・制御方式)へ更新している。その結果、電力使用量削減に繋げるとともに、長寿命化によるメンテナンス等のコスト削減も見込んでいる。

省エネの取組

エネルギー回収と大気汚染防止、臭気対策を目的に、TVR設備(タンカー排出ガス処理設備)を平成19年4月に設置し、これまで大気放出していた臭気原因のVOC(揮発性有機化合物)ガスを原油に吸着させ、エネルギーとして再利用を行っている。当初設備からグランドフレアを増設することで、更に効率的な稼働を実現したとともに、これらの設備で使用する燃料や電力も削減する取組も行っている。

その他、常温で固まる性状の原油を受入・払出するための設備について、加熱タンク配管の温度管理を徹底することで、燃料使用量削減に繋げている。

今後も引き続き、棧橋設備及び構内の水銀灯を、順次高効率化照明に更新を予定している。



省エネ活動



TVR施設(グランドフレア増設)